

キラリ通信



令和7年9月2日発行
立川市立第七小学校
校長 島村 雄次郎
拠点校特別支援教室七小キラリ
巡回校 第三小学校 第六小学校



～2学期がはじまりました～



長い夏休みが終わりました。2学期初めのキラリでは、夏休みの出来事を思い出して、話したり書いたりして伝える活動や、2学期の行事などを確認しながら一緒に目標を決める活動を行う予定です。

子どもたちは毎日様々な新しい課題に取り組んだり、仲間と一緒に集団行動をしたりするなど、多くのことに挑戦して頑張っています。特に2学期は授業日数も、学習や行事の量も一番多い学期ですので、ご家庭でゆったり過ごして、話を聞くような時間をいつも以上に設けていただけたらと思います。キラリでも、子どもたちが前向きな気持ちで日々を過ごせるように見守っていきます。今学期も、キラリへのご理解とご協力をよろしくお願いします。

【2学期の予定】 ☆9月2日（火）の週から、指導が始まります☆

9月 2日（火）	キラリ2学期指導開始 ※曜日ごと順次
10月20日（月）	七小運動会の振替休業日のため、指導なし
11月14日（金）	七小全校遠足→指導なし
	三小音楽会→指導なし
12月16日（火）	キラリ2学期指導終了（この日までに順次終了）
12月17日（水）～	保護者面談開始

※行事の練習と指導日が重なった場合は、原則として行事の練習等が優先です。

ご承知おきください。

※上記の他にも指導の変更等の場合があるので、毎回の連絡帳をご確認ください。



【保護者学習会】☆アンケートをありがとうございました☆

7月11日（金）に、LITALICO ライフの笠原千尋先生をお招きして、小学校卒業後の進路に関するお話ををしていただきました。ご参加してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。アンケートの一部をご紹介します。

- ・高校の選択肢の広さ、就労サポートが多いことを知り、安心しました。
- ・私たち大人が適切に幅広い進路の情報を与えてあげて、子どもに合った環境を探していくことが大切だと感じました。そして、「その選んだ進路を正解にしていく」ということが心に残りました。
- ・「個と環境、職業準備ピラミッド」の考えが参考になりました。
- ・「知っておくことが大事」ということ、また、親が何を調べて、子どもにどのような情報を与えたら良いのかが分かりました。まずは、色々と情報を集めて見学に行ってみます。
- ・就労についての情報も知ることができたので、逆算して考えることができました。

【不登校の状況】～キラリの教員が夏季研修で学んだこと～

① 不登校の状況・・・2018（平成30）年度→2023（令和5）年度の推移

【全国】1,000人当たりの不登校児童生徒数

小学校：7.0人→21.4人（約3倍） 中学校：36.5人→67.1人（約2倍）

【立川市】不登校児童・生徒数

小学校：78人→233人（約3倍） 中学校：190人→315人（約1.5倍）

② 不登校の原因

不安・抑うつ22.7%、やる気が出ない32.2%、生活リズム24.5%、親子の関わり17.0%
一方で、本人に聞いても理由がわからないことが多い（大人になって振り返っても分からぬ。）
「ぼーっとして元気が出ない」ことが、心理学的に見ても要因になることがあるそうです。
→NG「そんなの理由にならない」
→理由を聞いても辛そうなときは、「その気持ちを受け止める」ことが良いそうです。



③ 予防科学と不登校

◎ 危険因子と保護因子

・危険因子…ある問題を引き起こす危険性を増加させる因子（要因）

「例：夜遅くまで起きている。学習が理解できない。友達と気まずい関係が続いている。」

→危険因子が増えるほどリスクが高まる（不登校が起きやすい）

・保護因子…ある問題を引き起こす危険性を減少させる因子（要因）

「例：十分な睡眠がとれている。情緒が安定している。社交的である。教員との関係が良い。」

⇒保護因子の影響が危険因子の影響を上回った場合、状況が改善される可能性が増す。

不登校の課題については、危険因子に注目しがちだが、保護因子を見付け、増やすような働き掛けをすることによって、効果的な支援が期待できる！

④ 立川市の取り組み

◎ 「不登校対応巡回教員（中学校）の配置」

現在、立川市の中学校には、北部と南部に1名ずつ、計2名の不登校対応巡回教員が配置されている。不登校生徒の実態把握や、教員への働きかけ、外部へのアプローチ、別室対応などを行っている。

◎ 立川市「登校することに不安を持つ児童・生徒の保護者の方へ」（←検索してみてください）

立川市の各種相談窓口、学びの場や居場所の紹介がまとめられています。

⑤ 終わりに・・・

国は不登校について、「学校の登校という結果のみを目標にせず、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的自立を目指す」との方針を明確にしています。不登校児童数や登校日数に目がいきがちですが、大事なこと、キーワードは、「一人一人にとっての最適な居場所や教育機関の確保」です。「個と環境」という視点において、この考えは不登校のみに限りません。子どもたち一人一人の幸せな未来のために、保護者の皆様と学校が今できる最善を一緒に考えていきたいと願っています。